特集

空港へ行こう！

とよなか物語

2019　March　Vol.10

と、
ともに、
とよなか
TOYONAKA

まちと空港のストーリー

写真提供：津上亮平さん

平成31年（2019年）1月に開港80周年を迎えた大阪国際空港。日本の高度経済成長を背景に、昭和45年（1970年）の日本万国博覧会開催をきっかけとして拡張・整備され、ピーク時には年間2300万人を超える旅客数で西日本の「空の玄関口」としての役割を担ってきました。

いま大阪国際空港は、国内線の拠点空港として来訪者を迎えるだけでなく、飛行機に乗らない人も楽しい時間を過ごせる場所として生まれ変わりつつあります。そして、迫力ある飛行機の姿を間近で見ることができる空港として、全国から飛行機ファンが集まります。そんな大阪国際空港の魅力の数々をご紹介。空港があるまち、豊中がもっと面白くなります。

■大阪国際空港のあゆみ

1939年（昭和14年）
大阪第二飛行場として開場。戦中は陸軍航空隊の基地となる。

1945年（昭和20年）
アメリカ軍に伊丹航空基地として接収される。

1958年（昭和33年）
全面返還後、「大阪空港」と改称。

1959年（昭和34年）
「大阪国際空港」に改称。

1960年（昭和35年）
国際線乗り入れ開始。

1964年（昭和39年）
国際線ジェット機乗り入れ開始。東海道新幹線開業、東京オリンピック開催。

1970年（昭和45年）
3,000mのB滑走路供用開始。日本万国博覧会（大阪）開催。

1990年（平成2年）
大阪国際空港に関する存続協定を締結。

1994年（平成6年）
関西国際空港開港に伴い国際線を移管。

1997年（平成9年）
ふれあい緑地の一部をオープン。

2016年（平成28年）
国内初の空港コンセッション方式で関西エアポート株式会社による運営開始。

2018年（平成30年）
「そらやん」が関西3空港を運営する関西エアポートグループの公式キャラクターに就任。
定時運航遵守率ランキング大規模空港部門（OAG）で世界1位受賞。
中央エリアおよび展望デッキ先行リニューアルオープン。

2020年
南北ターミナルビルリニューアルオープン予定。

©Kansai Airports
SORAYAN

目次

特集　空港へ行こう！
1　まちと空港のストーリー
3　空港を楽しもう！
5　空港で何をしよう?!
7　こどもと空港で遊ぼう！
9　とよなかグラフィティ 飛行機写真を撮ろう！
11　地域とともに
13　行ってみよう！ 就航都市

空港を楽しもう！

『最高の空港の歩き方』（ポプラ社）の著者で、世界中の空港を訪れ、空港自体を楽しんでいる空港アナリスト・齊藤成人さんと一緒に大阪国際空港を歩き、その魅力について語っていただきました。

空港エンタテインメント時代

もともと空港は、飛行機を利用する際の「乗降場所」にすぎませんでした。ところが、最近では、買い物、グルメ、はたまたお風呂まで、空港ターミナルの中に楽しい場所が増えてきています。まさに、空港自体を楽しむ「空港エンタテインメント時代」が始まっていると言えるでしょう。

これは、飛行機を利用する人が増え、空港がもっと楽しく、そして便利になってほしいというニーズが高まってきたことが背景にあります。

2020年に向けて進化する大阪国際空港

空港エンタテインメント時代にあって、大阪国際空港も例外ではありません。カフェから家具店まで数多くの店が空港内にできました。何より平成30年（2018年）の中央エリアのリニューアル先行オープンで、子ども連れにやさしい空港になったという印象です。展望デッキやカフェが整備され、多くのベビーカーを押した親子連れの姿を見かけるようになりました。

現在、2020年夏のグランドオープンに向けて改修工事をしているところですが、いま以上にエンタメ性が増した空港になるのだろうなと思います。ただ進化しても、いまのアナログの案内表示板（通称パタパタ）だけは無くさないでほしいですね。レトロ感があって、おしゃれですから。

北ターミナルJAL(日本航空)側の保安検査場入口の反転フラップ式案内表示機。
開発した会社の名前から「ソラリー式」、表示がパタパタと音を立てて変わることから「パタパタ式」とも呼ばれます。近年はデジタル式への移行が進んでいるため、貴重な存在となっています。

空港に歩いて行ってみよう

空港の建物の周りも、大阪国際空港は楽しめます。国内でこれほど発着頻度が高く（特に夕方から夜はおよそ3分に1機着陸します）、飛行機を真下から撮影できる空港はありません。日本一の飛行機撮影スポットである千里川土手は、近くにコインパーキングもできて、ますます行きやすくなりました。

私がおすすめするのは、大阪国際空港に歩いて行ってみよう、ということです。たいていの人は「空港まで徒歩で来ました」と言うと驚きます。空港は人里離れた場所にあるというのが相場ですから、リムジンバスや鉄道で行くのが当たり前だと思っているんですね。大阪国際空港は、阪急宝塚線蛍池駅から1㎞あまり。ぶらぶらと空港まで歩いて行けば、それだけでレアな旅になります。大阪国際空港は歩いて良し、着いてから中でお茶をして良し、そして、飛行機を撮影して良し、な空港ですよ。

空港アナリスト **齊藤成人**（さいとうなるひと）さん

Profile

金融機関で空港や観光など運輸業界を長く担当。空港ファンとして20年以上にわたり世界中の空港を見て回る。訪れた空港は200か所以上。
著書のほか雑誌等で空港に関する執筆多数。

空港で何をしよう?!

大阪国際空港では、飛行機を見ながら非日常の時間を過ごすことができる展望デッキや中央エリア内の新しいお店などに加えて、多彩なイベントも開催されて、ますます行ってみたくなる機会が増えています。

「日常から離れて」

広々と開放的な展望デッキからは、駐機中の飛行機や駐機場内で忙しく働くさまざまな車の姿を間近で見ることができます。次々と飛び立つ飛行機の姿は、旅への空想をかき立てて、しばし日常を忘れさせてくれます。

特におすすめは夕暮れ時から夜にかけて。夕陽を背景に見る飛行機、色とりどりの光に溢れた滑走路は、幻想的な雰囲気に包まれます。

ライトアップされた展望デッキは大人のムード。

北展望デッキにある噴水は、夏場には子どもたちの絶好の遊び場。

「音楽あり、お笑いあり」

南展望デッキに新設されたステージでは、毎月、音楽イベント「ITAMI MUSIC HOUR」が開催されています（12月～2月は室内会場）。ゴスペル、アコースティック、クラシック、和楽器など、季節ごとにいろいろな音楽が身近に楽しめます。

また、北展望デッキにある「よしもとエンタメショップ」では、若手芸人が毎月コンセプトを決めて企画するライブ「よしもとナイトフライト笑わナイト」を開催。毎回何が飛び出すかわからないサプライズが満載の面白さです。

イベントは無料で、テレビにも出演するお笑い芸人を間近で観られたり、プロの音楽家による演奏を堪能できたりとあって、常連客も増えているそうです。

お笑いイベントでは飛行機好きの芸人による空港ネタが飛び出すことも。

さまざまな音楽が楽しめます。

写真提供：関西エアポート株式会社

10月に開催される「空の日エアポートフェスティバル」は格納庫の見学や空のお仕事体験、管制塔見学ツアーなど盛りだくさんの内容。

空港周辺市や就航都市のブースが出展して、ご当地グルメなどが楽しめる「空楽（くうらく）フェスタ」は毎年5月に開催。

問合せ
ITAMIイベント事務局
☎ 06-6347-7869

「世界初、世界最小ワイナリー」大阪エアポートワイナリー

最近注目の都市型ワイナリー（ワイン醸造所）が世界で初めて空港内に生まれました。醸造タンクが5つだけの世界最小のワイナリーでもあります。

醸造歴20年以上の醸造責任者が丹精込めて醸した出来立てワインのほか、日本各地のワイナリーから選ばれたワインを飲み比べて楽しむことができます。レストランで提供されるのは、大阪国際空港から半径50マイル（約80㎞）以内の食材を中心に使ったワインに合う南イタリア料理。

世界のワインに親しむ催しや、実際にワイン醸造の現場を体感する講座なども開催して、身近でワイン文化に触れ、学ぶ機会も提供しています。

醸造タンクを見ながら食事ができるカウンター席も人気です。

ぶどうの仕込みから出荷までにかかる期間は3か月から6か月。びん詰めされたワインを買うこともできます。

温度管理されたワイン樽から蛇口で直接グラスに注がれるワイン。同じぶどうから造られたろ過と無ろ過の両方を飲み比べることもできます。

特注タンクの上下を固定して大地震でも倒れないように配慮されています。

問合せ
大阪エアポートワイナリー
☎ 06-6152-5165

こどもと空港で遊ぼう！

リニューアルされた大阪国際空港は、子ども連れにやさしい場所です。
各トイレに幼児用補助便座が置かれ、ミルク用のお湯も出るベビールーム、
ベビーカーの貸し出しのほか、子どもが遊べる場所が増えました。

天然素材の幼児向けおもちゃも豊富にあり、実際にさわることができます。

アクタスキッズコーナー。買い物の間、ここで子どもが待つこともできます。

「子どもと一緒にゆっくりお買い物」

「上質で、丁寧な暮らし」のライフスタイルを提案する「アクタス大阪空港店」は、関西圏の店舗ではキッズ向け商品の売り場が最大規模。子どものころから天然木を使った良い家具に触れて長く親しむこと、世代を超えて使い継がれていくことをめざしています。

子どもと一緒にゆっくり商品を選べるように、キッズコーナーが設置され、商品を実際に試してみることができます。

問合せ
アクタス大阪空港店　☎06-6840-7700

南ターミナル出発ロビーと中央ブロックに設置されたキッズコーナー（そらやんのお部屋、そらやんのお庭）で待ち時間に、子どもたちを遊ばせることができます。

ターミナル内4か所（うち1か所は出発・到着フロア内）にあるベビールームでは、調乳適温のお湯が出る調乳器、シンク、授乳室を備えています。中央ブロックのベビールームには、おむつ自動販売機も設置されています。

※北ターミナルは平成31年（2019年）3月時点、改修工事のため仮設で調乳器・シンクの設備はありません。

テーマ別にさまざまなコーナーがある室内。

飛行機を見ながら遊べる屋外遊具。

「空港が子どもの遊び場」

離着陸する飛行機を見ながら遊べる大型ジャングルジムを屋外に備えた「ボーネルンドあそびのせかい大阪国際空港店」は、親子の室内遊び場と、世界の遊び道具を提供するショップが合体した施設。搭乗までの待ち時間に子どもを遊ばせたり、飛行機の中で子どもが遊べるおもちゃを買ったりする人のほかに、ここで遊ばせることを目的に来る親子も増えています。

「子どもが冬でも思い切り体を動かせるので時々来ています。テラスから飛行機を見ることができるのも喜びますね」と話すのは、自転車で来たというお母さん。

「ここには、子どもの好奇心を刺激するしかけが盛りだくさん。常駐するプレイリーダーは、安全管理とともに子どもの気持ちをくみ取り、遊びをリードする存在です。遊びを通して子育てのサポーターでありたいと思っています」と話すのは、副店長の太田朋子さん。

空港が子育て支援の役割も担っています。

問合せ
ボーネルンド
あそびのせかい
大阪国際空港店
☎06-4866-5636

とよなかグラフィティ

飛行機写真を撮ろう！

大阪国際空港の南端に接する千里川土手（原田中）はテレビでも紹介され、全国から飛行機好きが集まる「飛行機写真の聖地」と言われています。

「飛行機写真を撮り続けて50年」

小学生のころから空を飛んでいる飛行機が大好きだったという津上亮平さん（新千里東町）。高校生時代から50年以上にわたり大阪国際空港で飛行機の写真を撮り続けて、大学生時代にはほとんど毎日のように空港に来ていたそうです。いまも週に1、2回は通っていて、パイロットをはじめ、たくさんの空港関係者とは顔見知りです。

「大阪国際空港から飛び立つ飛行機は、急角度で高度を上げたあと機体を左に傾けて旋回します。そのときには地上からでも、飛んでいる飛行機のボディの側面を撮れるのです」と話す津上さんの写真は、雑誌や新聞などさまざまなところで掲載されて、アメリカの著名な業界専門誌のコンテストで1位になったこともあります。また、飛行機写真の愛好家が使う「練炭ジェット」（ジェットエンジンが一瞬赤くなる様子。1ページの写真参照）という言葉を最初に使ったのは津上さんで、雑誌編集者に「練炭のように赤くなる」と話したところ、雑誌の記事などで使われて広まったとか。

飛行機写真の歴史をつくっています。

津上さんがお気に入りの撮影ポイント、スカイランドHARADA（原田西町）では駐車場から滑走路が一望できます。

（写真左上：全日空機L1011、左下：日航機B747）昭和52年（1977年）国内線に就航したエアバスは、室内に2通路をもつワイドボディ機で騒音も少ない大型航空機の通称。全日空機尾翼の図柄は、当時同社の社章に用いられていた、レオナルド・ダ・ヴィンチが考案したエアスクリュー（ヘリコプター）。

「飛行機写真愛好家の作品」

B滑走路に向かうB787ドリームライナー。大型機並みの航続距離を誇る最新中型機。
写真提供：西峯滉人さん

夕焼け空のなか滑走路に向かう着陸機。
写真提供：山﨑淳司さん

親子のように並ぶ2機の飛行機。
写真提供：松村政信さん

「変わらない 千里川土手」

古い写真を見ても、千里川土手で飛行機見物をする人はたくさんいました。いまもにぎわう千里川土手で出会った人に聞いてみました。

「自分が親に連れて来てもらったので、いまは自分の子どもを連れて来ています」

「大阪国際空港は東西南北どこからでも写真が撮れて、こんな恵まれたロケーションは他にありません」

「子どもに飛行機を見せたあと、消防訓練所で消防車を見せて帰るのが散歩コースです」

「東京から職場の仲間と写真を撮りに来ました。飛行機の近さに驚きました」

平成26年1月12日ジャンボジェット機お別れ遊覧飛行を見るために千里川土手に集まった人々。騒音対策のため同機は平成18年に離着陸禁止となっていましたが、住民などの了解のもと、空港近隣市の住民を乗せて富士山などを巡る遊覧飛行が実現しました。

雨上がりの滑走路を離陸するB747（ジャンボジェット）。飛行機による大量輸送を実現した4基のエンジンをもつ世界初のワイドボディ機。

写真提供：津上亮平さん

YS-11は戦後初めての国産旅客機。昭和40年から平成18年（2006年）まで国内定期路線で運航されました。下の写真は、東亜国内航空が運航した初代機。機体に合わせて客室乗務員の制服もオレンジでした。

※千里川土手の周辺には、トイレ・ごみ箱はありません。
ごみはお持ち帰りください。
※お車でお越しの際は、近隣のコインパーキングをご利用ください。

地域とともに

まちなかにある大阪国際空港は、人々の暮らしとともに歴史を重ねてきました。空港と共存するこれまでの道のりと周辺施設をご紹介します。

大阪国際空港では、昭和39年（1964年）にジェット機が就航して以来、周辺地域における騒音問題がますます深刻化しました。国はジェット機の発着時間を段階的に制限するほか、「航空機騒音防止法」（昭和42年）を制定し、周辺地域住民への移転補償や公共施設・民家への防音工事等を進めました。

こうしたなか、空港周辺住民が国を相手に夜間飛行の差し止め等を求める訴訟を提起しました。この訴訟は、国を相手にした初めての公共事業の差止訴訟で、和解交渉により夜間飛行禁止が合意されました。

その後、騒音対策や環境整備が強化され、地域とともに空港を活かしたまちづくりが進みました。

騒音対策地域の移転補償跡地の有効活用で生まれたのが「ふれあい緑地」（服部西町4・5丁目、服部寿町3～5丁目地内）です。緑地内には、温水プールなどのスポーツ施設や長いローラー滑り台を備えた遊戯広場、水辺ビオトープ、広大な芝生広場があり、いまでは多くの市民でにぎわう場所となっています。

低騒音機の導入や発着時の工夫などにより、騒音はかなり改善されましたが、環境基準は未達成（平成29年度）です。住環境の保全と空港による地域活性化を両立するために、市と市民による取り組みはこれからも続いていきます。

「空港を活かしたまちづくり」ふれあい緑地（服部西町・服部寿町）

離着陸時の騒音軽減方式

離陸時には、一般的な離陸に比べて急上昇することや、着陸時には、空気抵抗を減らしてエンジンの推力（進行方向に推し進める力）を小さくするために脚下げを遅くするなどの運航上の工夫が行われています。

■主な環境対策の歴史

- 1965年（昭和40年）ジェット機の23時～翌6時の発着禁止。
- 1974年（昭和49年）航空機騒音防止法改正。
- 1977年（昭和52年）1日の発着回数制限370回。
- 1984年（昭和59年）航空機騒音訴訟和解成立。
- 1990年（平成2年）大阪国際空港に関する存続協定を締結。
- 1997年（平成9年）ふれあい緑地オープン。
- 2002年（平成14年）大型防音壁（エンジンテスト場）使用開始。
- 2006年（平成18年）3基以上のエンジンをもつジェット機の乗入全面禁止。
- 2010年（平成22年）騒音対策区域の見直し。
- 2012年（平成24年）関西国際空港及び大阪国際空港の一体的かつ効率的な設置及び管理に関する基本方針を策定。

「とよなか 救命力世界一宣言」豊中市消防訓練場（原田中）

大阪国際空港の南東に位置し、着陸寸前の飛行機が真上を飛ぶ豊中市消防訓練場。ここでは、消防職員や消防団員により、ポンプ操法をはじめとする消火訓練や、さまざまな救助現場を想定した救助訓練が行われています。

毎年8月に開催される全国消防救助技術大会に向けて選考試験で選ばれた精鋭たちによる救助特別訓練隊を編成。引揚救助訓練と障害突破訓練での全国大会出場をめざして、厳しい特別訓練を重ねます。

「救命力世界一宣言」とは

豊中市は、人口に対する救命講習修了者数の割合や、市域面積に対する救急隊数、救急救命士数の割合が全国トップレベル。また、豊中市が属する豊能二次医療圏は、高度な救命処置を担う医療機関が充実しています。豊中市は、市民、事業者、救急隊、地域医療の連携により、世界で一番と言えるほどの高い救命率を誇ることから、平成22年に「救命力世界一」を宣言しています。

着陸間際の飛行機から見ることができる「救命力世界一宣言」。

引揚救助訓練は、地下やマンホールなどでの災害を想定して、5人1組（要救助者含む）で行います。

「みどりのまちなみと“ごみ”を活かすために」原田苗圃（原田中）

千里川をはさんで大阪国際空港の南端に隣接する市営原田苗圃（びょうほ）。豊中市では、「花とみどりのまちづくり」を推進するための取り組みの一つとして、地域の団体等からの希望に応じて樹木の配布を行っています。原田苗圃内の「緑化樹木見本園」には配布用の多種多様な苗木が植わっています。

苗圃の奥にある「緑と食品のリサイクルプラザ」は、学校給食の生ごみと街路樹等の剪定枝から堆肥（土壌改良材）「とよっぴー」を作る施設です。市と市民団体の協働による「とよっぴー事業」は、とよっぴーを使って市内の農業者が育てた野菜が学校給食の食材となる資源循環のサイクルをつくりだすだけでなく、とよっぴー農園での農体験学習、地産地消野菜の流通などを生み出しています。

毎年10月に開催される「とよっぴーフェスタ」では、千里川の土手に隣接する原っぱが開放されて、真上を飛ぶ飛行機を見ながら、のんびり過ごす家族連れも多いそうです。

初心者でも一から教えてもらえて、おいしい野菜が作れる「とよっぴー農園」。自分で育てた野菜は野菜嫌いの子どもも喜んで食べるそうです。

行ってみよう！就航都市

豊中市は、大阪国際空港の就航先である34空港40市町村と都市間交流を進めています。そのなかでも特に交流が深い就航先空港と就航都市の魅力をご紹介します。

「北アルプスを遊覧飛行」松本空港（松本市）

北アルプスや美ヶ原高原など、周辺を高い山々に囲まれていることから、日本で最も標高の高い松本空港での離着陸には、パイロットの高い技術が必要とされるそうです。3,000m級の山々を見下ろす窓からの景色は、さながら遊覧飛行のようです。

松本市で開催される国際的な音楽祭「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」は、世界中から優れた音楽家が結集し、オペラやオーケストラコンサートなどの多彩な演目のほかに、青少年育成のための教育プログラムが実施されます。フェスティバルに合わせて市民が参加するさまざまな関連事業も行われ、松本市の夏は音楽一色。また、オーケストラの演奏をリアルタイムで鑑賞できるスクリーンコンサートが国内の各地で行われ、豊中市も開催地になっています。

国宝松本城と北アルプス。

©山田毅

「滑走路を走ろう！」石見空港（益田市）

石見空港では、普段は入ることができない滑走路がコースの一部となるマラソン大会が開催されています。壮大な滑走路、キラキラ輝く日本海、赤い石州瓦が懐かしい田園風景というコースに魅かれて全国からマラソン愛好家が集まります。

自転車によるまちづくりを進める益田市では、同じく滑走路がコースの一部となるサイクリングイベントが毎年開催されているほか、自転車競技のアイルランド代表チームのキャンプ地となることも決定しています。また、迫力のある舞と豪華絢爛な衣装が特徴的な石見神楽が盛んで、幼いころから神楽に親しんで、舞手になりたいと憧れる子どもも多いそうです。

「地球を知る」隠岐空港（隠岐の島町）

隠岐諸島4島は、その貴重な地質や地形、環境により、ユネスコの「世界ジオパーク」に認定されています。隠岐空港は、すぐそばの牧草地で草をはむ隠岐牛の姿を見ることもできる、のどかな場所にあります。

隠岐の島町は、古くから林業が盛んな島。植林してから伐採するまでに約150年間を要し、親が植えて子が育て孫が伐採すると言われます。世代を越えて山を守るという島民意識が培われて、島全体で森林認証を取るなど自然環境保護の取り組みに力を入れています。その隠岐の島町から平成30年（2018年）12月に、町産の松で丁寧に作られた記載台が豊中市へ贈呈されました。松独特の飴色の木肌が美しく、木の香りに心が癒される記載台に触れて、隠岐の島町の自然を感じてみてはいかがでしょうか。

約500万年前に噴出した火山岩から形成されたローソク島。

市役所第一庁舎に置かれた記載台。

「阿蘇山の雄大な景色と歴史遺産」熊本空港（菊陽町）

熊本空港は菊陽町の南部に位置し、雄大な阿蘇山を望むことができます。菊陽町は熊本県の北東部、阿蘇山に源を発した白川の中流域にある平坦地に位置し、自然豊かななかにも都市機能を併せもつ町です。

町は、水はけがよく肥えた火山灰土壌と気候が栽培に適していることから、米、麦、野菜などの農業が盛んであり、特に「菊陽にんじん」はクセがなく甘くておいしいと評判です。

また、土木の神様とも呼ばれる初代熊本藩主・加藤清正公により築造されたと伝えられる「馬場楠井手の鼻ぐり」は、火山灰の堆積を防ぐために水路の一部に壁を残して穴を穿（うが）つなど、他の用水路にはない特殊な技法が用いられています。熊本地域の水田を潤し農業の発展に貢献した歴史的価値のある農業用水利施設であることから、白川流域かんがい用水群の一つとして、平成30年8月に世界かんがい施設遺産に登録されました。

「ウルトラマンに会える！」福島空港（須賀川市、玉川村）

福島空港のある須賀川市は、ウルトラマンの生みの親で、特撮の神様と称される円谷英二監督の出身地。そのご縁で、須賀川市はウルトラマンの故郷「M78星雲 光の国」と姉妹都市となっており、市内の松明（たいまつ）通りでは、ウルトラヒーローや怪獣たちのモニュメントを見ることができます。今年1月に開館した市民交流センターtette（テッテ）内には「円谷英二ミュージアム」もあります。

また、空港では、ウルトラマンの立像やジオラマ等の常設展示があるほか、ウルトラマンポストから投函された定型郵便物には、ウルトラマンの消印が押されます。

須賀川市で、250年以上の歴史をもつ須賀川牡丹園は牡丹園としては全国で唯一国の名勝に指定されています。毎年11月に行われる「松明あかし」は、400年以上の伝統を誇ります。

©円谷プロ

玉川村の特産である「さるなし」は、キウイフルーツの原種で、果実は「コクワ」とも呼ばれます。一粒の大きさは3cm程度、ビタミンやミネラルなどの栄養素が豊富なスーパーフルーツです。あまりのおいしさに、猿が食べて無くなってしまったことが名前の由来と言われています。玉川村では、9月下旬から10月下旬にかけて、摘み取り体験を行っています。

また、「南須釜（みなみすがま）の念仏踊り」は、まだあどけなさの残る少女があでやかな花笠をつけて踊る、江戸時代から続く民俗芸能で、福島県の重要無形文化財に指定されています。毎年4月（大寺薬師祭）と8月に東福寺境内で奉納されます。

手振りでパイロットを応援
（走井２丁目17番の水門付近）

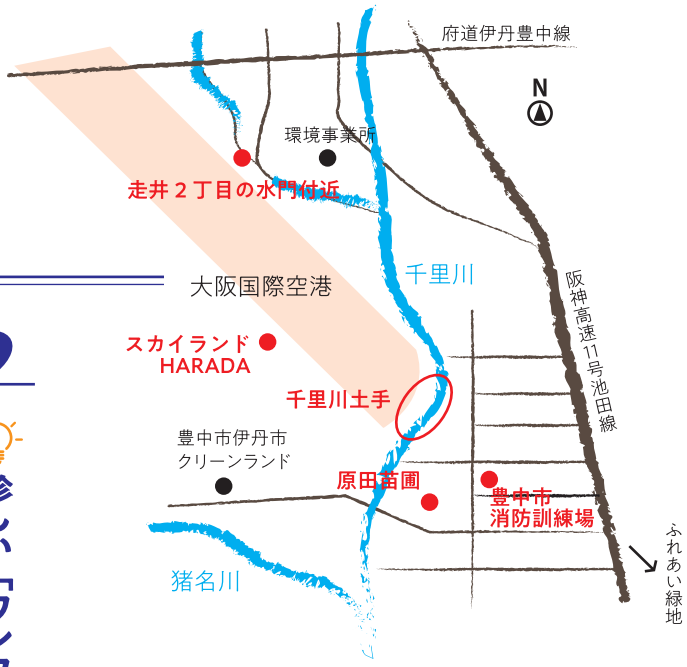
離陸するためにB滑走路に向かう飛行機を間近に見ることができる走井2丁目17番の一角では、週末になると何人かが飛行機に手を振ったり、写真を撮ったりしています。

13年前から毎週末に通って、手を振り続けている小川悟さん（桜の町）は、大阪国際空港から乗務するパイロットのだれもが知る存在です。パイロットを応援する気持ちが伝わって、平成25年（2013年）には、全日本空輸株式会社の運航乗務員有志一同からの感謝状を授与されました。

ここに来れば必ず会える飛行機好きの仲間と交流するのも楽しみ。エンジンの逆噴射で舞い上がる水しぶきが迫力あるという、雨の日ならではの魅力もあるそうです。

猪名川町から祖父に連れて来てもらっている三宅蓮さん（11歳）は、小学校に入る前から乗り物図鑑で飛行機の名前を覚えて、学校中のだれよりも飛行機に詳しいと一目置かれています。「迫力のあるボーイング777（トリプルセブン）が好き」と言う三宅さん。将来は航空整備士になる夢をふくらませています。

飛行機に向かって手を振る小川さん（右）と三宅さん（左）



豆知識

1 滑走路に書かれた数字

航空管制では、真北を360として時計回りに方角を3桁の数字で表します。たとえば東は090、北西は315です。滑走路の末端には向かう方角を表す数字の上2桁が書かれていて、大阪国際空港では、「32」と「14」です。

2 珍しい「ワンフォー」

大阪国際空港での離着陸は、ほとんどが北西方向に向かって行われますが、南風や東風が強いときは逆方向からの離着陸となります。滑走路を南東に向けて使うときは、滑走路の末端に書かれた方角を表す数字にちなんで「14（ワンフォー）」と呼ばれ、めったにないことです。

3 伊丹空港と呼ばれるのはなぜ？

大阪国際空港の敷地は、豊中市、伊丹市、池田市にまたがっており、第二次世界大戦の終戦後、米軍に接収された飛行場は「伊丹航空基地（Itami Air Base）」と呼ばれていました。その名残でいまも「伊丹空港」が通称として使われ、空港を識別するコードは「ITM」となっています。

発行／平成31年（2019年）3月　〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号　豊中市 都市活力部 魅力創造課　☎ 06-6858-2863